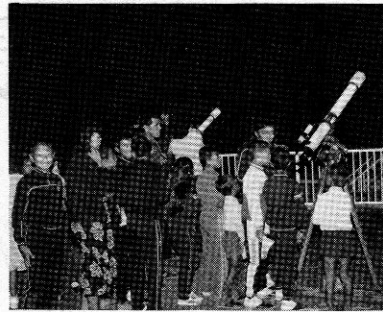


### 宇宙のロマンを求めて 秋の天体観測教室

十月四日(土)、午後六時より改



善センターで、日置町子連の主催で秋の天体観測教室が行われました。小学生を中心に多くの人の参加がありました。山口県児童センターの先生により、秋の星座、天体望遠鏡の組み立て方法について説明があり、ビデオで火星探検をしたのち、センターの屋上で農高生のボランティアに手伝ってもらい星の観測をしましたがいにくと曇り空、アンドロメダ大星雲は見る事ができませんでした。それでも木星、金星などは十分に見ることができ、子どもたちは宇宙のロマンにふれるひとときを過しました。

## センターだより

### 歩け歩け大会

約百四十名参加

十月十二日(日)、恒例の歩け歩け大会が開催されました。改善センターから千畳敷まで友達、親子等それぞれのグループでオリエンテーリング方式で約一時間半。山頂では、青年団が焼いもを作って待っていました。宝さがし、グループで昼食と楽しい一日でした。今回、参加できなかった方は来年ぜひ参加してください。



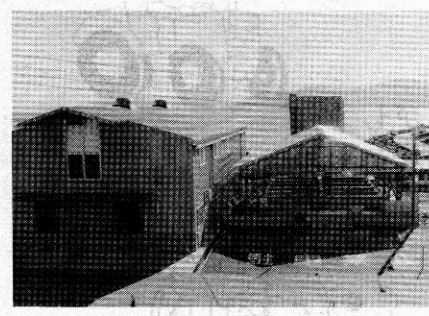
## 今、わたしは

中村 修



私が小学校五・六年生の頃、夏休みに友達と海に潜ると、アワビ、サザエがたくさん捕れた。たき火をして、焼き、汗を流しながら食べたあの頃の思い出は今もなつかしい。美しくきれいで資源豊かな海には無限の広がりがあった。あれから、四十年、美しく豊かな海は失われつつある。「なぜ」と海に問いかければ海は即座に答えるだろう。「それは人間があまりにもわがままだから」と。沿岸の埋立てによる自然破壊、ゴミの海上投棄、合成洗剤が多く含まれた家庭排水、過剰な漁獲努力による資源の枯渇、要因は数多く考えられるだろう。だが海は漁業者の生産の場である。今、我々漁業者が何らかの手立てをしなれば、掛替えない海は失われてしまいます。獲れるだけ捕るという時代は終わりつつある。競

争から協調へ厳しい現実に対応しうる漁業経営をすべき時代ではないだろうか。幸い黄波戸漁協は国、県、町の助成による新沿構事業でアワビの陸上中間育成施設が昭和五十九年に完成、現在育成中である八万個の稚貝を六月に仙崎漁協より十三ミリ内外一個十七円で買い取り、来年三月まで十ヶ月間中間育成をすると十ヶ月の間に稚アワビは三十ミリ内外一個五十円に成長、四月の風を見て放流をしている。歩留りは七十パーセントから八十パーセント。作業を担当するのは海士組合員が六班に分れ、一ヶ月交替で、夏場は十日に一度の育成状況、投餌、水槽の掃除を行い、作業日誌にへい死数、投餌量を記録している。十月以降になると水温が下るので、



十五日に一回の作業になる。夏は汗を流しながら、冬場は寒さにふるえながらの作業は大変な苦勞である。だがアワビの中間育成を漁業者が自分達の手ですることに、アワビに対する愛着心が生まれ、海のエネルギの強さ、自然の恵みのありがたさを新ためて感じるのではないだろうか。自然を人為的にコントロールしようとしても出来ないだろうし、すべきではないと私は思う。自然との調和と共存を認識し、人間が自然に力をかすならば自然はより大きな恵みを我々にあたえてくれるであろう。美しくきれいで資源豊かな海を求めて我々漁業者がいま最大の努力をすべきときではないだろうか。二十一世紀を生きる人達のためにも。